



平成 29 年 8 月 9 日

各 位

会社名 東海汽船株式会社
 代表者名 代表取締役社長 山崎潤一
 (コード番号 9173 東証第2部)
 問合せ先 取締役経理担当 横田清美
 (TEL 03-3436-1135)

平成 29 年 12 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と実績値 との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 29 年 2 月 9 日に公表いたしました平成 29 年 12 月期第 2 四半期累計期間(平成 29 年 1 月 1 日～6 月 30 日)の業績予想数値と、本日公表の実績数値に差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 12 月期通期業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 12 月期 第 2 四半期累計期間の業績予想と実績値との差異

平成 29 年 12 月期 第 2 四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 5,000	百万円 △400	百万円 △350	百万円 △220	円 銭 △100.22
実績値 (B)	5,172	△184	△129	△70	△31.99
増減額 (B - A)	172	216	221	150	
増減率 (%)	3.4	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年12月期第2四半期)	4,939	△216	△178	△109	△49.94

平成 29 年 12 月期 第 2 四半期累計期間の個別業績予想と実績値との差異(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 4,100	百万円 △300	百万円 △300	百万円 △200	円 銭 △91.11
実績値 (B)	4,286	△117	△73	△35	△16.37
増減額 (B - A)	186	183	227	165	
増減率 (%)	4.5	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年12月期第2四半期)	4,062	△171	△133	△76	△34.87

(注)当社は平成 29 年 7 月 1 日を効力発生日として普通株式 10 株につき 1 株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い 1 株当たり四半期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

2. 平成 29 年 12 月期 通期業績予想の修正

平成 29 年 12 月期 通期連結業績予想の修正(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 11,300	百万円 300	百万円 300	百万円 220	円 銭 100.22
今回修正予想 (B)	11,300	420	450	320	145.77
増減額 (B - A)	0	120	150	100	
増減率 (%)	0.0	40.0	50.0	45.5	
(ご参考)前期実績 (平成28年12月期)	11,174	414	480	353	161.11

平成 29 年 12 月期 通期個別業績予想の修正(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 9,100	百万円 150	百万円 200	百万円 170	円 銭 77.44
今回修正予想 (B)	9,100	270	350	270	123.00
増減額 (B - A)	0	120	150	100	
増減率 (%)	0.0	80.0	75.0	58.8	
(ご参考)前期実績 (平成28年12月期)	9,010	259	334	257	117.23

(注)当社は平成 29 年 7 月 1 日を効力発生日として普通株式 10 株につき 1 株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い 1 株当たり当期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

3. 業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正の理由

第 2 四半期累計期間の業績につきましては、海運関連事業において旅客数が好調に推移し売上高が増加しました。また、費用面では原油価格が高値から下落し、当初の予想より船舶燃料費の増加が小幅になったことから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益とも前回予想を上回る結果となりました。

通期の業績予想につきましては、原油価格の変動を受けて燃料油価格変動調整金収入が減少すると予想しております。今後、最多客期である夏場の天候や原油価格の動向が、業績に大きな影響を及ぼすため、予断を許さない状況が続きますが、第 2 四半期累計期間の業績改善を受けて各利益は前回予想を上回る見込みです。

以 上